



待望の『ドイツ・イデオロギー』ついに刊行!

新マルクス=エンゲルス全集(新メガ)

第1部・第5巻:著作・論文・草稿

『ドイツ・イデオロギー』

諸草稿及び印刷物 全2巻

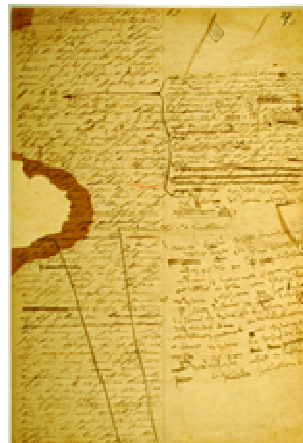
Gesamtausgabe (MEGA). Abt. I/Bd. 5: Werke, Artikel, Entwürfe:
Manuskripte und Drucke zur Deutschen Ideologie. 2 Bde.

Marx, Karl / Engels, Friedrich, Gesamtausgabe (MEGA). Abt. I/Bd. 5: Werke, Artikel, Entwürfe:
Manuskripte und Drucke zur Deutschen Ideologie. 2 Bde. Bearb. von U. Pagel u. a. 1893 S. 2017
(de Gruyter Akademie Forschung, GW) <636-45a>
ISBN 978-3-11-048577-6

★Kunstleder Zus.

マルクス・エンゲルスの大著『ドイツ・イデオロギー』は、二人が20歳代半ばの1845年から翌46年にかけて執筆されました。彼らの唯物論的歴史観が文献史上初めて姿をあらわしたものと非常に重要な著作とみなされています。しかしこの『ドイツ・イデオロギー』は彼らの生前には刊行されず、「原稿を鼠どもがかじって批判するにまかせた」(マルクス)ままで残されました。

遺稿は未完成で、抹消や加筆が錯綜した状態のままです。それらの草稿を基にして、これまで様々な編集方針で刊行が試みられてきましたが、新メガ『ドイツ・イデオロギー』の巻は、草稿の正確な再現を目指すものとして、久しく刊行が待たれていたものです。待望の巻が遂に刊行されました。



(『ネズミの批判』にあった遺稿の一部)

MEGA

新マルクス・エンゲルス全集全114巻(予定)のご案内

新MEGAは現在「学術化」と「国際協力」の旗印の下、アムステルダムの「国際マルクス・エンゲルス財団」によって編集・刊行がすすめられ、これまでにおよそ75巻が刊行されております。人類が生んだ知的宝庫であるマルクスとエンゲルスの著作類を漏れなく所蔵するために、『新マルクス・エンゲルス全集』の継続ご注文、また欠号補充をお薦めいたします。

(詳細・既刊部分に関してはお問い合わせください。)

新 MEGA 最新刊は総計 1893 頁の『ドイツ・イデオロギー』

ようやく待望の『ドイツ・イデオロギー』関連の全草稿と印刷物を収録する新 MEGA 第 I 部門第 5 巻が刊行された。新 MEGA 本巻のテキスト部は 709 頁、学術附属資料部(Apparat) は 1184 頁。本巻の Apparat は既刊巻のなかでも群を抜いて浩瀚である。

その内容と意義

新 MEGA 本巻の編集者タイトルは「カール・マルクス/フリードリヒ・エンゲルス：ドイツ・イデオロギー。諸草稿及び印刷物」である。新 MEGA 本巻の意義は何か。第一義的には、『ドイツ・イデオロギー』の成立や伝承、その編集史等に関する問題を、具体的かつ詳細に、草稿のオリジナルに基づいて自由に — しかも草稿の解説に関する特殊な専門的知識を有さなくとも — 研究できることになったことであろう。

新 MEGA 本巻で文字通りの初公表は附録の草稿 1 点であり、他は既に最終テキストの多くが原語で公表されている。しかし今回ほど徹底したテキスト批判が収録文書に加えられたことはなかった。解題には 70 頁余が割かれ、当時の論争や収録草稿だけではなく、新 MEGA 第 III 部門第 1,2 巻に収録された書簡、特にマルクス/エンゲルスと第三者との往復書簡を活用することで、二人が独自の季刊誌刊行計画を立案し、関連草稿を公表しようとしたこと、この計画が変遷し頓挫する経緯を詳論している。また解題とは別に、当初はブルーノ・バウアー及びマックス・シュティルナー批判として起草され、後に第 1 章「フォイエエルバッハ」の本論部分に転用された草稿部分の「成立と伝承」には 32 頁を割き 4 段階からなるこの部分の成立過程を詳述している。加えて、異文一覽で紹介されている、本文テキスト成立に伴うテキストの抹消、加筆、置換、展開順序変更の正確な記録は、総計約 500 頁に達する膨大なもので、注解と共に、旧 MEGA 第 I 部門第 5 巻 (1932 年)、新 MEGA 試作版 (1972 年)、新 MEGA 先行版 (2004 年) などの水準を遙かに上回るものがある。

編集者の問題提起

新 MEGA 本巻の編集者でもある IMES 事務局長の G.フープマン氏は、プレスリリースで、本書は、「唯物論的歴史観の生成階梯への全く新たな地平を切り開く」とし、この歴史観の成立を専ら『ドイツ・イデオロギー』第 1 章「フォイエエルバッハ」に関連させて捉える MEW, Bd.3 (=旧 MEGA) の見地を排し、同第 2, 3 章の青年ヘーゲル派の歴史観や社会主義的諸潮流への批判との関連を重視すべきことを強調している。現在、MEW, Bd.3 の第 1 章編集を首肯する研究者は、わが国にはまず存在しないと思われる。しかし、この歴史観の成立と第 1 章草稿との関連、特にそこでのフォイエエルバッハ批判との関連を重視する見解は、わが国学界の通説でもある。新 MEGA 本巻の公刊を機に、こうした通説の再検討あるいは再確認をすることがまず必要となろう。

大村 泉

東北大学名誉教授・国際マルクス/エンゲルス財団編集委員